

平成22年4月27日(火)
国土交通省関東地方整備局
千葉港湾事務所

記者発表資料

平成22年度 千葉港湾事務所の事業概要について

千葉港湾事務所の平成22年度における事業概要は、以下のとおりです。

千葉港湾事務所では、首都圏における産業の国際競争力強化・防災対策として、千葉港葛南中央岸壁(水深－12m:耐震強化構造)および泊地の整備や、木更津港木更津南部地区泊地(水深－12m)の拡幅浚渫を実施していきます。

また、海上交通が輻輳している東京湾の船舶の航行安全・湾内の環境改善のため、覆砂海域のモニタリング(東京湾海域環境創造・自然再生事業)と、清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミや油の除去・モニタリングポストによる水質の連続観測等(東京湾海洋環境整備事業)に引き続き取り組んでいきます。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ
千葉県記者クラブ、千葉市記者クラブ

問い合わせ先

所属 関東地方整備局 千葉港湾事務所

氏名 副所長 うえの 上野 まひる 雅明

電話 043-243-9172

FAX 043-243-1939

千葉港葛南中央地区多目的国際ターミナル整備事業

H22年度事業費： 3.0億円

【千葉県船橋市】

事業の概要

千葉港葛南中央地区では、地域の主要産業である鉄鋼等の貨物を多く取り扱っていることから、今般の船舶大型化により生じている係留施設の不足を解消し物流コストを削減するため、現在の1.5万トン級（-10m）の岸壁を3万トン級の岸壁（-12m）へ大型化を図ります。同時に、大規模地震時における海上からの緊急物資輸送を確保するため、耐震強化構造とします。

平成22年度予定

岸壁（-12m）の本体工、上部工及び泊地（-12m）の浚渫工を実施します。

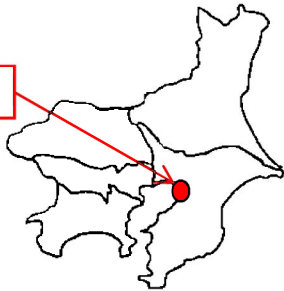
事業の効果

多目的国際ターミナルを整備することにより、3万トン級の大型船舶が喫水調整しなくとも出入港が可能となり、港湾貨物輸送の効率化とコスト低減が図られ地域産業基盤の強化が図られます。

また、岸壁を耐震強化することで、大規模地震時において、海上からの緊急支援物資の早期大量輸送が可能となり被災地域の復旧・復興に貢献します。

【位置図】

千葉港



木更津港木更津南部地区多目的国際ターミナル整備事業

H22年度事業費： 1. 5億円

【千葉県木更津市】

事業の概要

木更津港では、3万トン級の貨物船が連続2バース接岸可能な「木更津南部地区多目的国際ターミナル」が平成20年2月に完成し、外貿物流の取扱拠点として、更なる物流の拡大が見込まれています。

港湾背後企業の国際競争力の強化を図るため、一般貨物船（船長180m級）よりも船長の長い自動車専用船等（船長200m級）が安全に入出港出来るように、当該泊地における泊地幅を380mから410mに拡幅します。

平成22年度予定

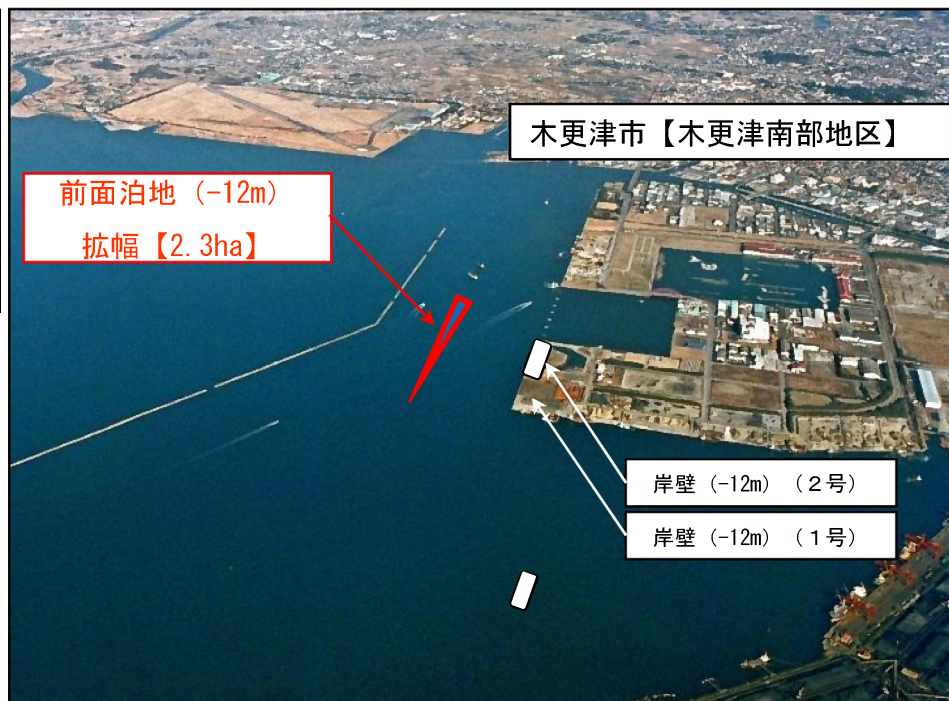
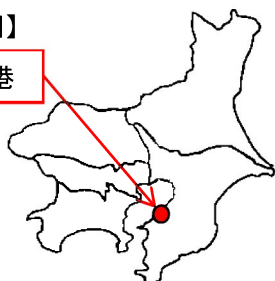
泊地（-12m）の浚渫工（拡幅）を実施します。

事業の効果

泊地を拡幅することにより、一般貨物船より船長の長い自動車専用船等の離接岸の際に船舶の方向転換が容易となり、物流コストの縮減と安全性が図られます。

【位置図】

木更津港



東京湾 海域環境創造・自然再生事業

H22年度事業費： 1.0億円
【千葉県浦安市】

事業の概要

汚泥等有機物の堆積する海底面を良質な土砂で覆うことにより、海底面からの有機物の溶出等を抑制し海域環境の改善を目的に、東京湾再生のパイロット事業として平成17年度から18年度にかけ実施しています。

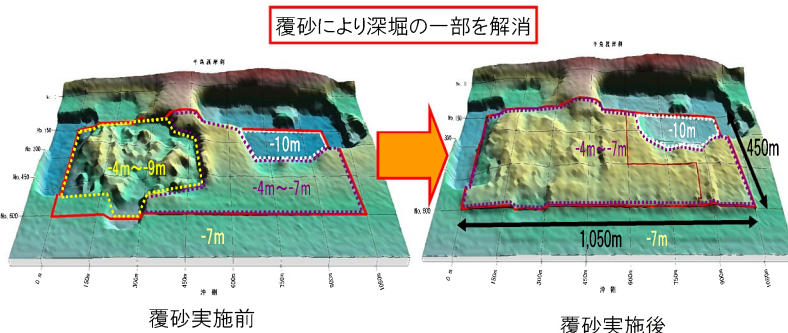
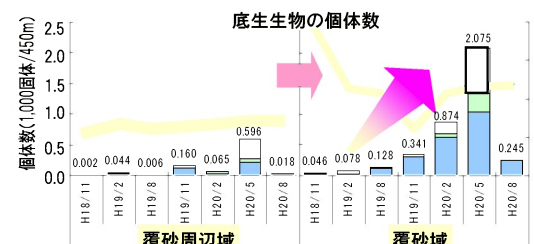
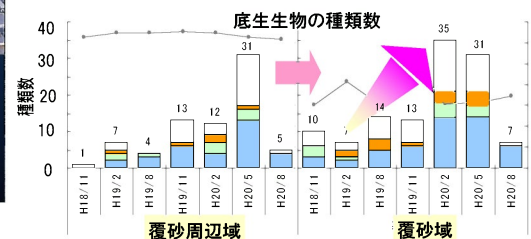
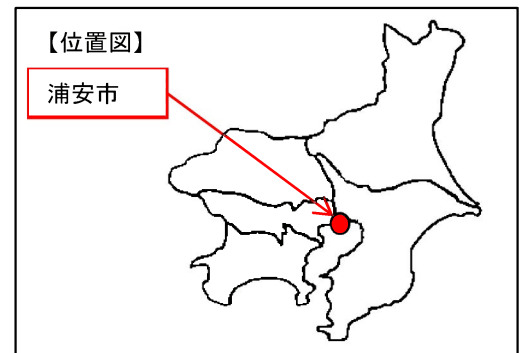
覆砂材料には、中ノ瀬航路浚渫で発生した良質な土砂を有効活用し、千葉県浦安市の千鳥沖に厚さ約1mの覆砂を行いました。

平成22年度予定

平成17年度および18年度に実施した覆砂海域で水質、底質、底生生物等の環境モニタリング調査を引き続き実施します。

事業の効果

平成21年度までに実施したモニタリング調査結果から、覆砂海域ではアサリ等の貝類を初めとする底生生物が種類数・生息数が増加し、定着できる環境であることが確認されました。また、青潮の発生原因とされる海底に堆積していた有機物の溶出を封じ込める効果が、覆砂後3年経過してもなお維持されています。



東京湾 海洋環境整備事業

H22年度事業費： 1. 5億円
【東京湾全域】

事業の概要

東京湾では、港湾管理者（千葉県、横浜市、川崎市、東京都）が、それぞれ港湾区域内の海域の清掃活動を担当しており、港湾区域以外の一般海域は千葉港湾事務所の清掃兼油回収船「べいくりん」で実施しています。同時に、油流出事故等が起こった際の浮遊油回収も行います。そのほか、海洋環境把握のため水質データ等の取得も行っています。

また、東京湾内に新たに設置した4箇所のモニタリングポストにより、平成22年度から気象（風向・風速・気温）、水質（水温・塩分・濁度・クロロフィル・溶存酸素）、流況（流向・流速）について、1時間おきの連続データ観測を実施します。

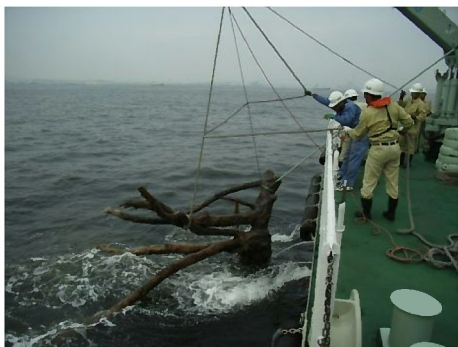
平成22年度予定

- 清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミ・油の回収、水質調査を引き続き実施します。
- 新たに設置をしたモニタリングポストにより東京湾内の気象・水質・流況状況の連続観測を実施します。

事業の効果

高度経済成長により悪化した東京湾の環境は、海洋環境整備事業（浮遊ゴミや油の回収）の取り組みもあり、次第に好転し、再び豊かな海へと戻り始めています。

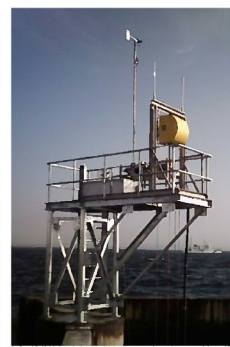
今回さらに連続観測を行うことにより、湾全体の環境メカニズムを把握すること以外にも、浅場造成や海底覆砂の有効性などの効果を確認していくとともに、生物の生息環境にも大きな影響を及ぼす赤潮、青潮等発生や、発生後の広がり状況の解明し、今後の環境改善対策に活かします。



清掃兼油回収船「べいくりん」による流木の回収作業



湾内6箇所にて水質調査を実施



設置されたモニタリングポスト（川崎人工島）



（浦安沖）